

待降節第2主日の説教

金 大烈 神父 2008年12月7日(日)

《私達の母、太田の聖母》

お早うございます。

今日、本当は洗礼者ヨハネが整えた道について、分かち合えば相応しいのではないかと思ったのですが、明日は何の日かご存じでしょうか。“無原罪のマリア様の祝日”です。易しく言いますと、原罪のある者が特別に神様から恵を頂いて、原罪無しに生まれた、そのマリア様を祝う日です。今日がその日であつたらもっと良かったと思うのですが、明日は月曜日ですので、予め私達のお母さんであるマリア様について今日は話したいと思います。

私は今までに色々な聖母像やマリア様が描かれた絵を見てきました。初めて感じた事があります。皆様はどう感じられたか分かりませんが、今、聖堂の前に“聖母の園”が整えられ、そこにマリア様が設置されています。皆様もマリア様のお顔をご覧になったと思います。今まで私は“マリア様”から浮かぶイメージは“温かさ、母、母性、自分を抱きしめてくれる様な、何でも聴いてくれる様な”その様なものばかりでした。しかし、あの“お母さん”の顔を見て、私は「この姿は本物ではないか」と感じられるほどの姿が目に入りました。それは“祈る”姿でした。今まで沢山の聖母像を見てきましたが、私は初めて、「あっ、このお母さんは祈っていらっしゃるのだ」という感じがものすごく強く自分の心の中に生じました。ですからこのマリア様、私達の母であるマリア様がこの太田共同体を愛していらっしゃる事を私は感じました。

私は1年半前にこの教会に来ましたが、悲しい気持ちになった2つの出来事がありました。1つは、私が初めてこの教会を訪れ、ご聖体に挨拶をして聖堂を出る時に、聖堂の後ろにある“ピエタの聖母”が目に入りました。見てみると、皆様もよく覚えていらっしゃると思いますが、顔に沢山の傷がありました。心を病んでいる誰かが、鼻ももいでしまいました。何故、聖母像の鼻が無くなったのか、それで私の心も痛みました。そしてレジオ・マリエの集まりを覗いてみると、永いカトリックの歴史の中で、今マリア様の力を求める人がこの様に少ないのかと、また心が痛みました。そしてロザリオを持っている人がほとんど目に入りませんでした。悲しかったのです。

その様な体験があり、何故、最も大切にしなければならない人の一人、私達の母であるマリア様がこの様に軽んじられているのか。その為に私の祈りは始まりました。私が毎日捧げるロザリオの意向は「この共同体をあなたに捧げます。何とかして下さい」という願いでした。「あなたの取り次ぎによって、イエス様がいつもこの共同体を抱きしめて下さいます様に」という願いを含めたロザリオでした。

そして、1年ほどして、私達のこの地区の中に、隠れキリシタンの人が沢山殉教されていることも気が付きました。その様な事から、私は何かをしなければいけないと思い、聖母の園を造りたかったのです。その思いが沸いた途端、インターネットで聖母像を探し始めました。そして、気に入る聖母の顔が見つかりました。直ぐに直接電話をしたところ、その作家は「3体作りましたが、1つはアメリカ、1つは韓国のどちらかに、そして1つだけ残っています。しかし枠は壊れたので同じものは作ることが出来ません。もし作るとすれば6ヶ月以上かかるでしょう」という答えでした。ですから、その場で「日本の太田教会に送って下さい」と答えていました。その聖母が、皆様をご覧になった聖母の像です。そして人間ですから、もっと綺麗に飾りたいという思いが沸きました。

誰もが自然に祈ることの出来る、そして慰められる、その様な聖母の園を造りたいと思いました。像は“ルルドの聖母マリア”という名前でしたが、私が実際にロザリオの玉の数を数えてみると、ルルドは6連のはずですが、一環に5連しかありませんでした。私はそれを幸いと、ルルドではなく

“太田聖母”と名付けました。これからは、あの聖母は“ルルド”でもなく、“ファチマ”“グアダルーペ”の聖母でもない、紛れもなく“太田聖母”と称するという気持ちで園を準備しました。

皆様をご覧になっても、日本の物価、石や植栽の値段を考えると、結構お金がかかったのではないかと思われるでしょう。ある方が、自分が神様から頂いたもの、何よりも召し出しに対して、また特に自分が生まれた事に感謝して捧げて下さいました。この席で紹介したかったのですが、強く強く拒まれ、「これは私達の共同体の為に捧げられるものですから、個人の名は相応しくありません。共同体の名にして下さい。皆の祈りによって捧げられた聖母の園だと言って下さい」とお願いされましたので、私もその意向を尊重し、この様に紹介させて頂きました。

不思議な事を申し上げます。私がわんちゃんを飼っているのをご存じですよ。時には問題を起こして大変な事もありますが、その犬小屋の横に3つの石がありました。青い色をした石です。ある日大きな機械の音がするので、窓から見てみるとその3つの石がどこかに運ばれるところでした。私はそれを捨ててしまう事が出来ず、いつかどこかに使えると思い、作業を止めました。その中で一番大きな石が、今聖母の像の横にある、青い色を放つ大きな岩です。後であるシスターから「これは50年前に聖母像の横にあった石です」と聞きました。ビックリしました。見捨てられるはずだった石が自分のあるべき場所に戻って来ました。そして、横に名さえ分からない大きな木がありますよね。その木は園を設計する時に邪魔でした。それをどうするか、切ってしまうか。切ってしまうと50年間愛児園の子供たちが登った楽しい思い出が無くなってしまうので、それを簡単に切る事が出来ません。移す事も難しい。たとえ根回しをしても移したら枯れてしまうという専門家の意見もありました。苦労して考えましたが、園の面積を前に広げてみると、まるでその木は聖母の為にあった様に見えます。わざわざ植えた様に感じさせる位、丁度ピッタリの場所に立っていました。園には一年中色々な花が咲きます。2月は少し心配ですが、必ず何かの花が咲くでしょう。12ヶ月の間、毎月、綺麗な特に日本の香りのする何かしらの花が咲くと思います。

もう1つ不思議な事を申し上げます。この絵をご覧になった事はありますか。覚えていらっしゃるでしょうか。これは1976年、今から30年前にグアタルーペというシスターによって描かれたものです。彼女はこの様に色々な作品を残したそうですが、修道院の中には彼女の跡がほとんど残っていないそうです。しかし信者の中で、それぞれ大切に保管されているものがありました。これもその中の一枚で、太田教会出身の方が持っていらっしゃるものを今日の為に借りて来ました。

予言的ではないでしょうか。30年前に描かれたものですがその位置を見て下さい。これはうちの教会でしょう、聖母の園はどこにありますか。この大きく描かれたマリア様の下ですよ。これをカラーコピーにしてどちらかに飾ります。これらの事をみても、色々な方々の祈りによって、また人によってこの様な事が出来上がったのではないかと思います。

マリア様が愛されるこの共同体は絶対に倒れません。逆に、誰が司祭になっても、誰が修道者の役割となっても、誰が委員長になっても、この教会は段々大きく、福音的に望ましく成長して行くと思います。それには皆様それぞれの心を込めた祈りが必要ではないかと私は強く信じます。

それから1つだけお願いしたいのですが、出来るだけ聖母の園の前には車を止めないで下さい。日曜日は運動場や別の駐車場に止めて下さい。そして誰が来ても像が目に入り、静かに挨拶が出来、簡単な意向を表せる位の雰囲気になって欲しいと思います。ですから多少の不便さは了承して下さい。このミサ後、祝福を致します。

それから、私は難しい決心を1つしました。それも聖母の園の為に。皆様の前で言ってしまうと大変な事だと分かっていますが、私は高校を卒業してから1回も止めた事のない煙草を来年に止めます。私は性格の弱さでしょうか、煙草が枕元になければ眠れません。そして吸うものが無くなったら、自分がゴミ箱に捨てたものを探します。その位です。でも何とかやらなければならないという思いです。マリア様の園の前では煙草は吸えません。禁煙の為にクリニックを探してもらい、お医者さんに本当に止められるかどうか尋ねました。禁煙の為に薬もありますので、1ヶ月だけ我慢して下さいと

の答えでした。もし禁煙が出来なければ、私のせいではなく、お医者さんの責任です。(皆、笑う)
教会の敷地内でも、喫煙の場所を決めたいと思っています。不便さがあっても理解して頂くようお願いいたします。

とにかく、私達の母であるマリア様の事をよく心に留めて、誇りとしてお持ちになって欲しいと思います。

ありがとうございました。



太田聖母の園



夜のマリア像(マリア祭にて)